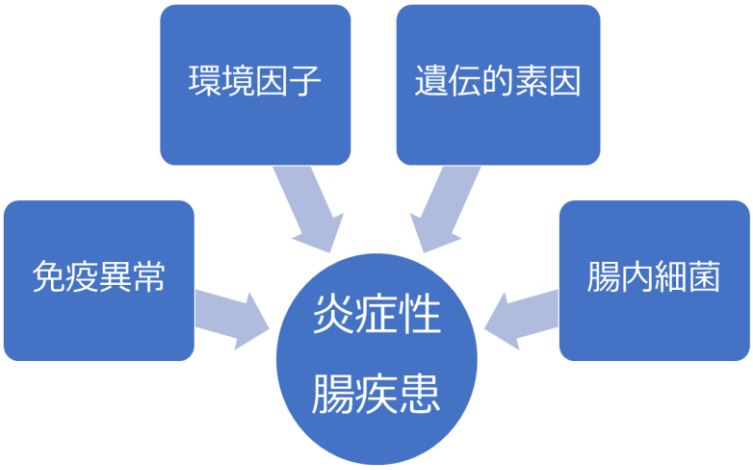
シーズ名	炎症性腸疾患におけるバイオマーカーの開発
所属・役職・氏名	消化器内科学・准教授・山上　博一（YAMAGAMI, Hirokazu）

＜要旨＞

- 炎症性腸疾患の病態には環境因子、免疫異常、遺伝的素因、腸内細菌などが関与していると考えられているが明らかではない。
- 炎症性腸疾患患者や健常者の糞便中の腸内細菌叢を検討することで疾患特異的な細菌叢や疾患活動性と関連する腸内細菌叢について検討しバイオマーカー開発につなげることを目標とする。

＜研究シーズ説明＞

炎症性腸疾患である潰瘍性大腸炎とクローン病は大腸をはじめとする消化管に潰瘍やびらんなどの炎症を来す疾患である。従来比較的稀な疾患と考えられ「難病の患者に対する医療等に関する法律」で指定難病に指定されているが、本邦での患者数は年々増加し、潰瘍性大腸炎では 181,560 人、クローン病では 42,397 人（平成 26 年度衛生行政報告例）に達している。炎症性腸疾患の病態には環境因子、免疫異常、遺伝的素因、腸内細菌などが関与していると考えられているが明らかではない。



炎症性腸疾患患者や健常者の糞便中の腸内細菌叢を検討することで疾患特異的な細菌叢や疾患活動性と関連する腸内細菌叢について検討しバイオマーカー開発につなげることを目標とする。

＜アピールポイント＞

ヒトを対象とした研究で実用化に直結する。また潰瘍性大腸炎とクローン病は「難病の患者に対する医療等に関する法律」で指定難病に指定されており、本疾患の患者に対する良質かつ適切な医療の確保が望まれている。

＜利用・用途・応用分野＞

炎症性腸疾患の活動性の評価、発病の原因を解明することで新規治療、予防治療への応用が見込まれる。

＜知的財産権・論文・学会発表など＞

Ectopic colonization of oral bacteria in the intestine drives TH1 cell induction and inflammation.
Atarashi K, Suda W, Luo C, Kawaguchi T, Motoo I, Narushima S, Kiguchi Y, Yasuma K, Watanabe E, Tanoue T, Thaiss CA, Sato M, Toyooka K, Said HS, Yamagami H, Rice SA, Gevers D, Johnson RC, Segre JA, Chen K, Kolls JK, Elinav E, Morita H, Xavier RJ, Hattori M, Honda K.
Science. 2017 Oct 20;358(6361):359-365.

＜関連するURL＞

https://ocu-gastro.jp/

＜他分野に求めるニーズ＞

なし

キーワード	炎症性腸疾患、腸内細菌、バイオマーカー